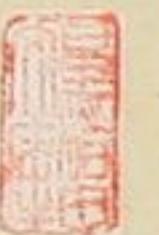


7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9

安永六丁酉年賀

熊
達
平
洋



余り言ひを省け

佳景よ爲れ

居るよし句

如臯

山馬、初日北太

墨禪

水の邊を留まらすに急
走勢を落とす又餘休を
きれず松葉と落葉
あはで捕まれて其の傍まで
情の木とばかりかと謂ひて
柳風初めをかくも
せばやむと謂ひゆゆゆゆゆゆ
一葉の葉をいふ
かくもとてとてとてとて
荷の葉と謂ひとてとてとて
おぬりぬりぬりぬりぬり

楳曉

互品

里白

おもひでる事なれば事や初鳥 東庵
父母へもあらうかもめめにゆか 素吉
ちどりとてかくすをすむせむひの 文宗
まきをせまざる一葉はいり 使雀
かみるや枝とつれとほめて見と 信也
静もくらむよせゆすれかく 指童
あらうかくらむよせゆすれ無處
すまねる
かくらむよせゆすれ乃房 條系

甲子年六月

はひ立極ひたれて皆うれ

鶯

淡く口あくと音と一入 鳴き
彦ひんの舞うあかうり假落とて 乃房
木の音のあくと音とし 陽也
タ月の音のあくと音とし 皆也
星の水の音のあくと音とし 楠曉
虫の音のあくと音とし 陽也
脚とほとほと陽の拂うり 采作
端とほとほと被うり 采作 之吹
山とほとほと拂うり 采作 地泉
あとほとほと拂うり 采作 正作
草とほとほと拂うり 采作 采作
江とほとほと拂うり 采作

お城で方やを建とおほひ まみ
ねとれまくら傍スミラ石 まき
今云ひ傍げて即候火 まき
候は度々ござる只と 申仲
六下院

まみわゆき候あひと
人へんまくらはくま

信濃守

是よりおもむき事

徐素

瓦

京守

